

境内では震災募金も

吉田神社 節分行事を斎行

京都の吉田神社（宮下務宮司、左京区吉田神楽岡町三〇）で二日から四日までの三日間、日本一といわれる名高い節分行事が行なわれた。

今年は兵庫県南部地震の影響か、例年よりやや少ない人出となったが、例年通り追儺式、火炉祭が行なわれ、災害の邪気を祓い福運を願う神事として、人々の心をなごませた。

二日の前日祭では、午前九時から特殊神事・疫神祭が斎行され、午後六時から、「鬼やらい」ともいわれる追儺式が始まった。

今年も法螺貝の音に先導された赤、黄、青の三匹の鬼が現われ、本殿前を四周して参拝者を威嚇するポーズをとると、子供の泣き声とともに、大人たちの間から笑い声がわき起こった。

行事のハイライトは、勅使役の上卿の登場。上卿が鬼を退散させるべく槍を構えると、鬼たち三匹は大声をあげて境内を逃げ、境内は歓声に包まれた。

また三日午前八時から、神事を中心である節分大祭が斎行され、午前十一時から火炉祭が夜を徹して行なわれた。

最終日の四日には、午前九時から後日祭が執り行なわれ、福豆抽選会で三日間の祭典が締めくくられた。

なお、吉田神社では今年、兵庫県南部地震を配慮して大阪で開催する予定だった節分関連のイベントを中止し、三日間、被害に遭った人々への募金を行なった。

震災の邪気を払うことを願って「鬼はらい」【写真は省略】